

令和6年度 学校経営報告(学校評価報告書)

四條畷市立田原小学校
校長 広谷 光輝

Ⅰ 学校経営方針

- 令和4年1月に策定の「四條畷市教育振興基本計画」の基本理念は「みんなの学びが叶うまち ～生涯学び 夢 挑戦～」とされており、「予測不可能な時代を豊かに生き、未来を拓く人材を育成するには、子どもからおとなまで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要」と示されている。この基本理念の実現に向けて、学校においては、今を生きる子どもたちの未来を見据え、「学び方を学ばせる」、「学ぶ力や学ぶ意欲、学ぶ楽しさを体感させ、身に付けさせる」ことがミッションであると考えている。
 - そのことを背景に、学校教育目標は昨年度と同じく、「自ら課題を見つけ、自主的・主体的に取り組むことのできる子ども」の育成とする。授業等の学校教育活動のなか、あらゆる場面において、子どもたちが自ら仲間や関係する大人たちとつながり、その過程のなかで自らが表現したり、主体的に取り組んだりする姿をめざす。
 - 本校では、家庭学習のあり方の改革を行い、「自分の課題を知り、自ら計画を立て学習を進める力」を高める取組みを、発達段階を考慮しながら全学年で展開していく。従来であれば、学校から出された宿題を家庭学習として進めていたが、少しずつ自分で課題を発見し、その課題を解決するために計画を立て、学習を進める力を育み、自ら学ぶ家庭学習に移行していく。そして、「学習力」(自分で自分の学びを進める力)を伸ばしていくことをめざす。そして、この流れを授業や学級活動等においても展開できるよう研究を深めていく。
 - 令和6年度の学校の活動テーマは「つながり」を継続する。子ども同士はもとより、教職員間、教職員と保護者、学校と地域(中学校や保育所等)など様々な関係において「つながり」を意識した取組みを推進していく。特に、教職員間の円滑なコミュニケーションにおいては、校長室だより等を通じて意識して声掛けを行っていく。
 - 活動テーマの実現に向けたキーワードとして、「あいさつ」、「共感と安心感」、「感謝」、「チャレンジ」、「家庭・地域とのつながり」の5つを継続して掲げる。校内教育実践の取組みのなか、具体的に5つのキーワードを常に意識した取組みを進めていく。児童には適宜、「あいさつができる子」「やさしい子」「チャレンジする子」を意識させる仕掛けを行う。
 - 昨年度同様に学校スローガンを「認め合い、支え合い、助け合い」を掲げるとともに、今年度も合言葉として、「ありがとう」と「大丈夫」を掲げたい。人は一人で生きてはいけない。周囲の人に支えられ、励まされ、時に迷惑をかけながら生活する。そのうえで、他者との関わりやつながりは不可欠なものであるが、まずは自己肯定感などを育むべく、子どもたちや教職員自身が安心感や自信が持てる環境・雰囲気につなげるために、「ありがとう」や「大丈夫」が溢れる学校作りに努めたい。
 - 昨年度より配置された加配教員等を活用した取組みを展開し、「児童の自己肯定感、自己有用感の向上」を挙げる。加配をいただいた1年間で、教職員や保護者、地域の関わりの成果で子どもたちの安心感は高まってきていると感じている。その一方で、内面が不安定で、居場所や安心感が持てない児童が存在するのも事実であり、本校児童の「心理的安全性」を高めてまいりたいと考えている。
- 以上、自身も他者もともに成長できる学校を創造するとともに、そのような子どもたちの育成に関わる教職員、保護者、地域方々にも、これら方針のもと、取り組める仕掛けづくりを進めていく。

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	みんなが笑顔で、温かく、思いやりにあふれた学校
★めざす子ども像	①自分の思いを表現できる子 ②たくさんの仲間と関わろうとする子 ③何事にもチャレンジできる子
★めざす教師像	熟成された人権感覚を持ち、認め合い、支え合い、助け合いながら教育実践を行い、常に学び続ける教師

3 学校の現状（よさと課題）

（1）子どもたちの実態

あいさつがしっかりできるなど素直な子どもが多く、やるべきことはしっかりと取り組める。また、子どもたちにもチャレンジする意識が出てくるなど、学校や家庭、地域での取組みの成果が徐々にみられるようになってきた。その一方で、あいさつも直接関係する友だちや大人などを相手にとどまっている実態もある。また、子どもが教室内や友だちの中でも、安心しきれず、自信のなさが見受けられたり、自ら積極的に表現したり関わろうとしたりすることについては消極的で依然として課題が見られる。

さらに、教師やその他大人の指摘を素直に受け入れられず、「自分だけではない」「周囲もやっている」ことを主張するなど、良くない行動を自分事として捉えにくい場面や言動が指導の中で多々見られた。

（2）子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

1小1中の校区であり、小中学校の連携した取組みは進めやすいが、子どもたちの集団や関係性は膠着しやすく変化が乏しくなってしまう恐れがある。また、子どもたちの成長に向けて任せてもよい、任せた方が成長につながると感じるところに大人の介入がその成長の停滞要因と感じるところもある。

②地域

学校教育及び子どもの教育全般に概ね協力的であり、子どもに対する働きかけも積極的である。反面、地域や保護者間のつながりにおいて二極化を感じる。また、教育や学校、子どもの成長に対する期待が大きく、それが故に、あらゆる事象に対する反応や答えを急がれたり、白黒をはっきりと求められたりする傾向にあることを感じる。そのことにより、子どもたちが受身になってしまうようにも感じる。

③組織（教職員、PTA、保護者）

教職員はまじめで子どもや保護者に対して、寄り添い、熱心に取り組める。問題行動等に係る子どもへの指導も教師の感覚による一方的な指導ではなく、子どもの話をしっかりと聞き、安心感を持たせながら、解決に向かう意識が高まっている。しかし、そのような対応だけでは、子どもたちは「叱られない」という意識のみが先行している状況も見受けられる。子どもが自分を見つめ、振り返る力をつける取組みを進めたい。

また、PTAは学校運営や学校行事等に関し、理解を示していただいております。常に役員会等において、情報共有しながら、進めることができる素地がある。保護者も子育てについて、まじめで一生懸命であるが、「こうあるべき」という考えを持つ傾向が見られる。近年は保護者の多忙な実態やつながりの欠如も相まって、子育てに悩まれるなか、外部機関にうまくつなげられず苦しんでしまう家庭が増える傾向にある。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)
<p>教育課程の編成やカリキュラム・マネジメントの実現等を主眼に置いた学習指導要領の確実な実施に向け、「確かな学び」の定着を図るとともに「生きる力」を育む指導を行う。</p> <p>①子どもの安心・安全の確保を最優先に置いた学校運営に努める。人権意識を高め、あいさつなど他者との関わりを通して「つながり」を意識し、より一層の「自己肯定感や自己有用感の醸成」を図る。</p> <p>②今年度も研究教科を算数とした。昨年度からの研究で深めた手法を活用しながら研究を進め、発表や交流、意見交換等を行う場での高まりを意識する。また、自らが自分の課題を知り、そこを解決する力の育成や、カリキュラム・マネジメントの成果として、教科横断型の問題にも対応できる力の育成を進めたい。</p> <p>③タブレットPCを活用した授業を推進し、取組み実践の共有やミニ研修等、教員のスキルアップを図り、授業改善をめざす。</p> <p>④「体力づくりアクションプラン」に基づき、児童の体力向上に資する取組みを充実させるとともに、自分のみならず家族や他者の命や健康を大切にする意識を育む。</p>	<p>①学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート</p> <p>A (児)「あいさつすることや相手を思いやることをがんばっている」(R5/85%)</p> <p>B (保)「学校は、子どもの人権を尊重した指導を行っている」(R5/93%)</p> <p>C (児)「先生は、いじめは絶対にいけないと教えてくれていると思う」(R5/87%)</p> <p>D (教)「いじめについて情報収集や対応及び未然防止など適切に取り組んでいる」(R5/100%)</p> <p>E (児)「自分が苦手なことやできないことにもチャレンジするようにがんばっている」(R5/75%)</p> <p>F (錫学調)「自分にはよいところがあると思う」(R5/71%)</p> <p>G (錫学調)「人の役に立つ人間になりたいと思う」(R5/94%)</p> <p>H (錫学調)「将来の夢や目標を持っている」(R5/81%)</p> <p>②学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート</p> <p>A (保)「先生はわかりやすい授業をしている」(R5/92%)</p> <p>B (児)「算数の授業はわかりやすいですか」(R5/83%)</p> <p>C (児)「自分の発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう工夫していた」(R5/65%)</p> <p>D (児)「話し合う活動では、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたか」(R5/82%)</p> <p>E (全国学調児、他)「自分で計画を立てて勉強をしていますか」(R5/65%)</p> <p>F すくすくウォッチ「わくわく問題」の正答率 (R5/0.932)</p> <p>G 全国学力・学習状況調査 (R5/0.928)</p> <p>H 標準学力検査 (NRT) (R5/47.4)</p> <p>③学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート</p> <p>A (保)(児)(教)「タブレットPC等ICT機器を活用した授業」に関する質問 (R5/保75%、児80%、教84%)</p> <p>④学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート</p> <p>A (児)「運動するのは好きですか」(R5/87%)</p> <p>B 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 (R5/男51.0女45.1)</p>

B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
①人権意識や自己肯定感 や自己有用感の醸成	①A 85%以上 ①B 85%以上 ①C 90%以上 ①D 95%以上 ①E 80%以上 ①F 80%以上 ①G 90%以上 ①H 85%以上 ※肯定回答	①A 86% ○ ①B 88% ○ ①C 96% ○ ①D 100% ○ ①E 77% △ ①F 85% ○ ①G 96% ○ ①H 84% △ ※肯定回答	EとHの項目は、昨年度の数値より微増しているものの目標達成とはいかなかった。チャレンジすることをもっと応援してあげる雰囲気を学校だけでなく周りの大人が作っていくことが重要に感じる。結果ばかりを求めるのではなく過程を重要視する雰囲気を家庭にも訴えていきたい。将来の夢に関してはこれだけいろんな方法で情報を得ることができている中で、自分をしっかり持って目標を定めるのは難しいと思う。正しい情報が選択出来る情報モラル教育を考えていきたい。
②算数科を中心にした校内研究、自学自習力の向上	②A 85%以上 ②B 85%以上 ②C 70%以上 ②D 80%以上 ②E 70%以上 ②F 府平均以上 ②G 全国平均 ②H 全国平均 ※肯定回答	②A 91% ○ ②B 56% △ ②C 75% ○ ②D 92% ○ ②E 71% ○ ②F 0.935 △ ②G 0.851 △ ②H 46.9 △ ※肯定回答	「算数の授業はわかりやすいですか」のアンケート項目に関しては、昨年度より大幅に数値が悪くなった。私が授業を見る限り、先生方は工夫された授業もされているが、一定数どのクラスにも低位層と呼ばれる児童が存在し、授業に参加しきれない様子もうかがえる。誰一人取りこぼさない授業づくりをめざし、来年度の授業改善につなげたい。また、各種学力検査についての数値は全て目標を下回るものであった。児童の回答を見返すと、決してわかっていないわけではないが、説明をする力がないことで正答につながっていない実態がある。これらの対応については、特効薬的なものではなく、普段の授業から説明する力を意識した指導を積み重ねていくしかないということを分析を踏まえ確認した。
③タブレットPCを活用した授業改善	③A保 80%以上 児 80%以上 教 85%以上 ※肯定回答	③A保 74% △ 児 79% △ 教 76% △ ※肯定回答	実際に授業を参観すると、教員もしっかりタブレットPCを活用し、その良さを生かした授業づくりを進めているように思う。ただ、個別の学びについてはA I型ドリルの効果的な活用、協働的な学びにおける授業支援ソフトの活用に関しては、もう少し研究がいるように思われる。
④体力向上等健康教育の推進	④A 85%以上 ④B 全国平均 よりー1ポイン	④A 86% ○ ④B 男子 47.6 △	体を動かすことには好意的な児童が多く、それは強みとして生かしていきたいが、数値は全国平均を下回ってしまった。シャトルランや50

	ト以内 ※肯定回答	女子 47.4 △ ※肯定回答	m走などの数値は全国平均を上回っており、柔軟性や敏捷性に課題が残った。昔に比べ、子どもたちの遊びに変化があるのはわかるが、SNSやゲームとの付き合い方も含め、学校だけでなく家庭や地域でも考えていくべき問題ではないかと考える。
--	--------------	--------------------	--

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
<p>教職員一人ひとりが明確なミッションのもと、やりがいと創造力をもって担当に当たれるよう適材適所を意識した学校組織体制を構築とともに、質の高い学校運営をめざす。</p> <p>①管理職、教務主任、各部長、(学年主任)等による学校運営委員会を効率的に開催するとともに、都度学校長のビジョンを明確に示しつつ、円滑な学校運営の推進を図る。</p> <p>②教職員間で「認め合い、支え合い、助け合い」の意識のもと、組織を超えたサポート体制がとれるよう意識醸成を図り、温かく風通しの良い職場環境をめざす。</p> <p>③支援教育の視点を取り入れた授業づくり、コミュニケーションの構築等、取り組みの推進を図る。相手が大人でも子どもでもまずは安心できる言葉かけやフォローに努めながら、必要な指導を行う意識を確立させたい。</p>		<p>①学校教育自己診断等 教職員アンケート</p> <p>A 「学校長の示すビジョンが明確であるか」(R5/95%)</p> <p>B 「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか」(R5/100%)</p> <p>C 「学校運営の状況や課題を全教職の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか」(R5/100%)</p> <p>②学校教育自己診断等 教職員アンケート</p> <p>A 「学校は楽しい」(R5/100%)</p> <p>B 「認め合い、支え合い、助け合う温かい職場環境の雰囲気がありますか」(R5/58%)</p> <p>③学校教育自己診断等 教職員アンケート</p> <p>A (教)「特別支援教育について理解し、授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫を行いましたか」(R5/37%)</p> <p>B (児)「先生はあなたの良いところを認めてくれると思いますか」(R5/78%)</p>	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
①円滑な学校運営の推進	<p>①A 80%以上</p> <p>①B 80%以上</p> <p>①C 80%以上</p> <p>※肯定回答</p>	<p>①A 92% ○</p> <p>①B 96% ○</p> <p>①C 96% ○</p> <p>※肯定回答</p>	<p>少し目標値の設定が低かったのかもしれないが、校長初年度ということもあり、自分自身の中で自信をもって発信できなかった部分は大いにあると思われる。その迷いが教職員に伝わらずわかりにくさにつながったのではないかと分析している。</p>

<p>②温かく風通しの良い職場環境をめざす</p>	<p>②A 80%以上 ②B 80%以上 ※肯定回答</p>	<p>②A 92% ○ ②B 92% ○ ※肯定回答</p>	<p>数値上は問題なく見えるが、最肯定の割合はあまり高い数値ではなく、私が1年間教職員共に過ごした中で、感じている雰囲気は、もっと同僚性を高め、一丸とならないことには温かく風通しの良い職場環境にはならない。教職員の安心安全のためにも来年度の重点項目になると私自身は捉えている。私自身もしっかり職員に訴えかけていきたい</p>
<p>③支援教育の視点を取り入れた授業づくり</p>	<p>③A 80%以上 ③B 90%以上 ※肯定回答</p>	<p>③A 96% ○ ③B 86% △ ※肯定回答</p>	<p>Aの項目の肯定的回答は非常に高い数値ではあったが最肯定の数値は昨年度より若干下がっている現状がある。支援教育を担当しているものが校内研修として基礎的環境整備や合理的配慮については発信してくれているものの、もう少し意識の高い取組みを個々の教員が実践していく必要性を感じており、数値だけで測るものではないと考えている。</p> <p>Bの項目についても、今年度保護者の方からいくつか教員の発言についての苦言を受けることがあった。今回の数値も決して低いわけではないが、子どもからの回答が100%となるような教職員集団をめざしていきたいというのが理想である。</p>

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
<p>教職員の資質向上とキャリアステージに応じた人材育成に重点を置く。</p> <p>①教職員の人権意識の醸成や資質向上を図り、児童や保護者、地域から信頼される組織化された教職員集団をめざす。</p> <p>②小学校教員の特性上、教科を深く研究する機会が少ない。府や北河内、市の研究会等への参加を促し、教科の専門性を高めていく。</p> <p>③教職員の働き方改革も踏まえ、各取組みや会議等がより効果的かつ効率的に進むよう、組織化された会議の運営を模索する。</p>		<p>①学校教育自己診断等 児童保護者教職員アンケート</p> <p>A (保)「学校へ行くのを楽しみにしている」(R5/92%)</p> <p>B (保)「学校はお子さまのことについて、適切に相談に応じている」(R5/87%)</p> <p>C (児)「学校は楽しい」(R5/83%)</p> <p>D (児)「先生は困ったときに相談ののってくれる」(R5/82%)</p> <p>②教職員の四條畷市教育研究会への参加率(新設)</p> <p>③学校教育自己診断等 教職員アンケート</p> <p>A (教)教職員の時間外勤務実態 (R5/平均 24.5H/月)</p> <p>B (教)「各会議の運営では、案件の整理などにより時間退縮もでき、効率的に実施することができた」(R5/89%)</p>	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
①教職員の人権意識の醸成	<p>①A 85%以上</p> <p>①B 85%以上</p> <p>①C 85%以上</p> <p>①D 85%以上</p> <p>※肯定回答</p>	<p>①A 91% ○</p> <p>①B 85% ○</p> <p>①C 89% ○</p> <p>①D 88% ○</p> <p>※肯定回答</p>	<p>全項目で○とはなかったが、できればどの項目も90%を超える回答が必要だと考える。特にCやDの項目は来年度の重点課題ととらえ、子どもたちにとって安心安全な学校づくりの指標として重要視していきたいと考えている。</p>
②教科の専門性の向上	<p>②80%以上</p>	<p>②72% △</p>	<p>今年私が教職員に最重要視して伝えた項目ではあったが、目標値に届かなかった。授業時間をカットして市内の中学校や研究校に研修参加できる機会をもっと積極的に来年度も取り入れていきたい。研修に参加するだけでなくそれを校内にフィードバックする機会もどんどん設けていきたい。私自身の中ではこの項目も来年度の重要課題の一つであると考えている。</p>
③組織化された会議の運営	<p>③A 25H/月以内</p> <p>③B 80%以上</p> <p>※肯定回答</p>	<p>③A 24H/月</p> <p>○</p> <p>③B 72% △</p> <p>※肯定回答</p>	<p>時間外勤務が多いのはほとんどが管理職であってこの点は今後改善していくべきことであると考える。会議に関してはペーパーレスも含め管理スリム化されてきているように思う。これ以上のスリム化はかなり困難な課題ではあるが目標値に近づけるよう努力していきたい。</p>

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
<p>こ小中連携・一貫教育を基軸とし、地域コミュニティづくりの推進を図る。</p> <p>①学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の研究及び周知の充実を図り、本制度が主体となった取組みを1点展開</p> <p>②田原地区のこ小中連携・一貫教育の取組みのより一層の充実を図るとともに、PTA活動や田原地区教育推進協議会と連携した取組みを通して、家庭教育支援の充実に努める。</p>		<p>①田原中学校と連携し、学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)について、学校だよりや各会議において、保護者や地域への発信を行い、学校運営協議会の円滑な運営を図る。</p> <p>②学校自己診断等 児童保護者教職員アンケート</p> <p>A(保)(児)(教)「中学校や地域、PTAとの連携」に関する質問(R5/保90%、児90%、教95%)</p>	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
①学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の研究及び周知の充実	学校だより発行 2回以上	学校だよりにて 紹介 2回 ○	学校運営協議会の取組みとして、あいさつ運動等を保護者に向けて発信してきた。今年度は運動会の受付業務を担っていただき学校としては大変助かった。その旨を保護者に通信で発信し、地域に支えられていることをわかってほしかったのではあるが、どれほど伝わったかには数値的にも疑問である。
②家庭教育支援の充実	②A保85%以上 児85%以上 教90%以上 ※肯定回答	②A保83% △ 児91% ○ 教80% △ ※肯定回答	家庭学習時間の短さは大きな課題である。さらに、SNSに費やす時間の長さも大変気になっている。この項目の数値の改善には教職員だけでなく家庭の協力が重要になってくる。学校運営協議会のみならずとも課題を共有し改善を図っていきたい。

5 学校関係者による評価(学校運営協議会等)

- ・学力観の中で家庭時間の短さの課題が挙げられたが、学力も大切だが人間性も大切に学校運営を心掛けてほしい
- ・毎日保護者と接する機会の中で、保護者が本当に忙しそうに働き、共働きの家庭が増えたことで時間が十分に取れず、子どもの学習まで行き届かない現状があるのではないかと。子どもが自分で学習する習慣を身につけていくことが重要ではないか。
- ・先生方も「役者」になって子どもたちの印象に深く残るような授業や取組みが子どもたちの話しかけやすい雰囲気づくりにつながるのではないかと。
- ・体力低下が報告の中にあっただが、子どもたちは外に遊びに行かなくなっている。田原地区は公園も比較的整備されているし、自然もたくさん残っていて環境的には悪くない。もったいないように思う。子どもたちが遊びの中でも創造力を発揮できていない。
- ・遊びの中で子どもたちの体は自然と鍛えられていた。子どもたちの遊びが SNS やゲームが中心になってきている。ICT 機器は確かに便利だが、使い分けをしっかりと指導していくことが必要ではないか。
- ・先生方の働き方改革もあり時間の使い方が個々に変わってきた。これまでと違う働き方の中で学校を運営していくことの難しさはあると思う。
- ・学校運営協議会の取り組む中であいさつ運動は非常に良かった。実際あいさつをしっかりとできる子どもたちが増えているように思う。
- ・学校運営協議会として、運動会の受付業務をお手伝いできたことはよかった。来年度以降も継続していきたい。

これらの意見を踏まえ、全般的におおむね目標を達成しているという評価としたい。

報告の中で、いじめに対する先生方と子どもたちの肯定的回答の高さに安心した。いじめは絶対に許さないという指導はぜひ小学校からしっかりやってほしい。

学力に関しては努力していただいているとは思いますが、頑張ってください。

6 総合評価と次年度に向けて

本年度の学校に対する評価は、保護者や児童へのアンケート結果からはおおむね良好であったと言えるものではなかったかと思っている。しかしながら、学校長としての実際の印象はまだ改善の余地があると考えている。

来年度の田原中学校区の大きなテーマとして『困ったときに誰かに相談できていますか?』という項目の肯定的回答を100%にするというものがある。数値はもちろん大事だが、相談できる雰囲気を学校が作っていくことが大切だと考えている。具体的には

- ①学校の様々な決まりを見直し、決まりを守らせる指導ではなく、子どもたちが守らなアカンと思えるような雰囲気づくり
- ②誰ひとり取りこぼすことなく全員が参加できる授業づくり、そのための教職員の研修への積極的参加による授業力のスキルアップ、及び家庭学習時間確保のための具体的方策の検討
- ③児童が話しかけやすい教職員集団の雰囲気づくり＝教職員の同僚性の再構築と考えている。

特に、①や②の家庭学習時間については来年度学校運営協議会の委員方々のご助言をいただきながら、取り組んでいきたいと思っている。②の授業スキルアップと③の項目については、学校長として学校運営を行う中で常に意識したいと考えている。

